第６回　理事会

日　時：令和３年10月５日（火）９：00～12：30

場　所：本学会事務局（Web会議併用）

出席者：長田会長（議長），伊藤副会長，清水副会長，
末永常務理事，秋山，池見，太田，大沼，小俣，
北田，佐々木，竹村，西山，長谷川（淳），
長谷川（信），林，升元，三好，和田 各理事
野村，齋藤監事
欠席者：稲垣，大谷，奥村，徳永，富岡，舩山
各理事
（理事25名中19名出席（過半数）により理事会は成立）

陪席者：熊谷（事務局）

議事内容：

1. 前回議事録の確認
   - 令和３年９月２日開催の第５回理事会の議事録案について承認した．

2. 審議事項

１）会員状況の確認
- 事務局長から10月４日時点の会員状況について説明があり，３名の学生会員の入会を承認した．
- 正会員1,841名，学生会員48名，名誉会員56名となり，総数は1,945名であることを確認した．
- ９月に逝去された江川良武元会員は，応用地形学研究部会の前身から同研究に従事されていたことから，応用地形学研究部会の小俣理事により追悼文の提出を検討するとのことであった．これに関連し，追悼文に関する掲載の方法について，編集委員会で検討することとなった．
- 会員の訃報の学会誌への掲載については，編集委員会で検討することとなった．

２）「応用地質」投稿規程・執筆要領の改訂について
- 担当理事より，標記の説明がなされた．審議の結果，投稿規程・執筆要領を改訂することについて承認した．
- 投稿規程の今後の取り扱いについて議論を行った．現在本学会では，「定款・規則・規程」としてホームページ上に一括してまとめているものの，投稿規程のみが会員サービスのページに掲載されており，学会の定款・規則・規程との位置づけ，関連性について整理するよう提起された．議論の結果，投稿規程に関する他学会の対応について編集委員会で調査・検討することとなった．
- 現在の投稿規程に相当するものは，編集委員会の担当業務として改訂を行うことができることとし，この上位規程として，学会誌編集に関する規程を新たに設けるなどの対応が考えられることから，総務委員会で検討することとなった．

３）「教科書執筆特別委員会（仮称）」設立趣意書について
- 常務理事より，標記の説明がなされた．設立趣意書の内容について確認された．今後特別委員会設立に向け，検討を進めていくこととなった．
- 設立趣意書のうち，特別委員会の構成について，比較的若手の委員が候補に含まれており教科書執筆への適性に関し疑義が示された．これに対し，委員は必ずしも執筆のみ担当するのではなく，教科書を実際に利用する立場としての意見を反映させるため，参画頂くとの説明があった．
- 委員長の候補である太田理事より，関連する研究部会等に所属する理事におかれては教科書制作に協力頂きたいとの要請があり，設定した４年の執筆期間に拘らず，良い教科書を執筆していきたいとの意見表明がなされた．

４）鹿島学術振興財団研究助成への学会推薦について
- 竹村理事より，標記の説明がなされた．研究助成申請を行う研究課題に対し，本学会として推薦することについて承認した．
- 学会の位置づけとしてはあくまでも推薦機関であることから，学会（災害地質研究部会）に関連した研究であることを強調しすぎない方が良いといった意見が出された．これに関連し，災害碑に関する研究としての応募を検討したものの，学会の事業計画との整合性から断念した経緯が説明された．
- 研究助成を受けられることとなった場合，本学会は研究費の使用に関する管理義務等は発生しないことが確認された．

５）2019年にデータの捏造で京都大学を懲戒免職となった元会員（2019年事案発生後に退会）が関連する投稿論文類について下記の２つに分けて精査し，事実関係を把握しておくこととした．

①過去の学会誌掲載の論文に関連するもの（編集委員会）
②研発発表会･シンポジウムで連名のあるもの（事業企画委員会）

- 現状では，仮に編集委員会における調査結果によりデータの捏造が見いだされた場合にも削除等の対応はとることができず，著作権のみが帰属していることになっている．これに対して，著者が投稿する際に誓約書または保証書を提出することとし，投稿受理・掲載後の論文の管理を行うべきであるとの意見が出された．他の地球科学分野の学会における事例を含め，編集委員会で対応を検討することとなった．
- 上述に関連し，学会員による何らかの不祥事が生じた場合，現行の学会倫理規程では対応が不十分となることが懸念されることから，地盤工学会等他の学

会の対応を参考に，清水副会長が調査することとなった.

3. 本部からの報告事項

1）収支状況について

・事務局長より，令和３年度８月の本部収支予算について説明がなされた．８月単月では赤字決算となることが確認された.

2）講習会アンケートについて

・担当理事より，アンケートの対象となる委員会・研究部会・支部の関連する理事におかれては，期限までの提出にご協力頂きたいとのことであった.

・講習会等の情報発信のあり方について議論を行った．現在広報・情報委員会で実施しているFacebookで情報発信をするのが効果的ではないかとの意見が出され，これを含めた情報発信について検討することとなった.

3）今年度研究発表会について

・担当理事より，完全オンラインになることに加え，従来の研究発表会と比較し，口頭発表の時間や開会式を冒頭に行うことが変更点として挙げられ，ポスターセッションでは11あるブレークアウトルームに座長を配置することが紹介された.

・新型コロナウイルス感染症拡大前には実施されていた今年度開催支部と来年度開催支部の打合せは，研究発表会の後に実施されることとなった.

4）来年度研究発表会について

・担当理事より，2022年10月13～14日に関西大学100周年記念会館において開催されることや，使用会場の利用計画，会場使用料等について報告された.

5）KSEGジオハザードセッションについて

・担当理事より，KSEG（韓国応用地質学会）の秋の研究発表会において日本・韓国・中国・台湾による８編の講演が企画されており，本学会の長田会長と野々村会員の講演は，事前に撮影したビデオを11月11，12日に放映することが紹介された.

・KSEGの春の大会における徳永理事の講演はIAEGのWebinarで公開されており，今回の講演の事後の取り扱いについては今後検討するとのことであった.

・４か国の今後の交流の進め方について，今後国際委員会で検討することとなった.

・国際応用地質学会（IAEG）と本学会とのかかわり方について議論がなされた．現状ではIAEGとは直接交流は無く，今月開催されるCouncil Meetingには国際委員会が対応している．これに対し，IAEGには地盤リスクに関連する委員会も存在するため積極的にかかわった方が良いという意見や，本学会全体としての関わりを検討した方が良いといった意見が出された.

6）研究発表会への防災学術連携体の後援について

・常務理事より，防災学術連携体から後援を得たことを確認した.

7）他学協会からの依頼

・常務理事より，日本工学会「科学技術人材育成・教育支援に関する情報提供のお願い」への対応について説明があり，情報提供内容について確認した.

・常務理事より，「学術情報・コミュニケーションのアクセシビリティに関する調査」への対応に関して説明があり，アンケート回答内容について確認した.

・常務理事より，地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）に対する提案募集に関して説明があり，広報案件としたことを確認した.

・常務理事より，shamen-net研究会によるセミナー「斜面における変位計測と高精度GPS/GNSS測位技術」への共催依頼について説明があり，共催を受諾したことが確認された.

8）第３回キャリアデザインセミナー開催について

・担当理事より，10月13日のセミナーでは，参加者を募集していることが紹介された.

9）JSRM/JSEG共催国際火山WSの開催報告があった．９か国，76名（うち学生19名）の参加があり，55編の発表，６件のKeynoteスピーチ，６件の企業展示があり，成功裡に終了したことが紹介された．今回は全面オンライン開催のため，ポストツアーは中止となった反面，開催に係る負担は軽減できることから，数年に一度実施できると良いとのことであった.

4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

1）総務委員会

・支部運営規程について，各支部の状況を確認していること，来年度総会・シンポジウムについて開催方法を検討していること，会員種別･会費に関するワーキンググループとCPDに関するワーキンググループが活動を開始したことが報告された.

2）国際委員会

・今年のIAEG Council Meetingは10月７日に開催されることや，アジア各国との交流についての紹介があった.

3）災害地質研究部会

・常務理事より，11月６日に行われる防災学術連携体特別シンポジウム「防災教育と災害伝承への多様な視点―東日本大震災から10年を経て―」に災害地質研究部会・稲垣理事から「防災教育への取組みと自然災害伝承碑応用地質学的研究」というタイトルで発表があることが紹介された.

・上述のシンポジウムでは，西山理事から「和歌山県新宮市に伝わる江戸時代の土砂災害慰霊碑の発見と活用」というタイトルの発表があるとのことであった.

4）社会貢献と魅力発信に関する特別委員会

・講習会等を対象とした学会のアウトリーチ活動をリスト化していること，講習会の一環として，地質露頭を対象としたオンラインガイドツアーを行うといったアイデアがあることが紹介された.

5）将来構想検討特別委員会

・現在進めている活動方策として，教科書執筆と講習会の充実について検討を進めていること，これまでに提案されている18の活動方策の関連性を分析し，統合や優先順位付けについて検討していることが紹介された.

6）ダイバーシティ推進特別委員会

・会員同士のネットワーキングの手段として，リモートイベントツールが活用できないか，試用を検討している旨が報告された.

・現在竹村理事がリモートイベントツールを利用した催しを予定しており，その結果を情報提供可能とのことであった.